

ビンググループ (VIC)

住宅不動産販売が業績を牽引、小売事業を売却し自動車・スマートフォン製造の成長分野への選択と集中へ

ホーチミン | 不動産運営・管理 | 業績フォロー

BLOOMBERG VIC:VN | REUTERS VIC.VN

- 2019/12期3Q (1-9月) は、純売上高が前年同期比10.1%増、継続的収益が同59.0%増、EBITDAが同33.9%増、純利益が同24.8%増。
- 事業別のセグメント利益では、不動産在庫販売とリース投資不動産および関連事業が黒字だった一方、その他の事業は赤字にとどまった。
- 主力の住宅不動産販売が引き続き業績を牽引すると見込まれる一方、赤字事業はビンファストとビンスマートを成長分野と位置付け、ビンコマースは事業売却するなど事業の選択と集中を進める方針である。

What is the news?

10/31発表の2019/12期3Q (1-9月) は、純売上高が前年同期比10.1%増の92.6兆VND、住宅不動産販売を除く継続的収益が同59.0%増の43.1兆VND、EBITDAが同33.9%増の22.1兆VND、純利益が同24.8%増の4.1兆VND。前期に無かったセグメントの製造活動の売上計上、および既存事業の増収に伴い継続的収益が増加。不動産在庫販売とリース投資不動産および関連サービス以外は前年同期から赤字幅が拡大または微減となったが、売上構成比53%の不動産在庫販売の増益によって吸収され純利益は増益を確保した。

事業別のセグメント利益は以下の通り。不動産在庫販売が同45.9%増の20.2兆VND。リース投資不動産および関連サービスが50.7%増の2.6兆VND。ホスピタリティ・娯楽その他サービスが前年同期の▲2.1兆VNDから▲2.0兆VNDへ赤字微減。ヘルスケアおよび関連サービスが前年同期の▲9,305億VNDから▲9,598億VNDへ赤字幅拡大。教育および関連サービスが▲741億VNDから▲1,615億VNDへ赤字幅拡大。小売サービスが前年同期の▲3.1兆VNDから▲3.4兆VNDへ赤字幅拡大。製造活動が▲4.6兆VND。その他が前年同期の▲4,731億VNDから▲6,260億VNDへ赤字幅拡大。

How do we view this?

2020/12期に向け、主力の住宅不動産販売は、**ビンホームズ (VHM)** の相次ぐ巨大不動産開発プロジェクトが国内における高いブランド力を背景に引き続き業績を牽引することが見込まれる。今後は、セグメント利益が赤字の事業の中で自動車や電動バイク製造のビンファスト、およびスマートフォン製造のビンスマートを含む産業セグメント (製造活動) を成長分野と位置付けて注力する。その一方、12/3に、小売店舗事業を手掛けるビンコマースを**マサングループ (MSN)** の小売部門と統合し、マサングループが経営の主導権を持つことを発表。事業の選択と集中を進める方針である。2020/4にハノイでF1ベトナムGPが開催予定であり、同社が生産を開始したベトナム悲願の国産車普及に向けて弾みがつくと期待される。スマートフォンの新機種もロシアを皮切りに海外販売を加速する予定であり、ビンスマートが成長する足掛かりとなろう。2019/12通期市場予想は売上高が前期比23.0%増の149.95兆VND、当期利益が同26.3%増の4.76兆VND。

業績推移

※参考レート 1VND=0.0046円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
売上高(十億VND)	57,614	89,350	121,894	149,950	233,775
当期利益(十億VND)	3,384	4,462	3,776	4,768	8,194
EPS (VND)	1,138.84	1,501.00	1,256.98	1,553.83	2,638.21
PER (倍)	101.77	77.22	92.21	74.59	43.93
BPS (VND)	9,360.82	10,654.86	17,747.26	23,296.11	25,845.10
PBR (倍)	12.38	10.88	6.53	4.98	4.48
配当 (VND)	0.00	0.00	0.00	-	-
配当利回り (%)	0.00	0.00	0.00	-	-

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

フィリップ証券株式会社

配当予想(VND) - (予想はBloomberg)
 終値(VND) **115,900** 2019/12/11

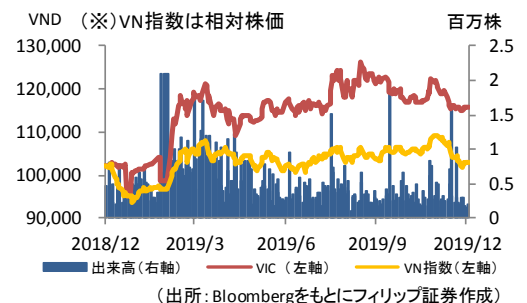
会社概要

1993年に創業者のファム・ニャット・ブオンがウクライナでテクコムを創業し、即席麺などを製造。2000年にベトナムでビンコムとビンパールの事業を開始し、2007年にホーチミン証券取引所に上場。テクコムは2010年にネスレに売却した。サービス、産業、テクノロジーの3つの主要な事業セグメントで構成され、各事業セグメントにも多数の部門を擁するベトナム最大のコンゴロマリットである。2019/9末現在、ベトナム上場企業の中で最大の時価総額の企業である。

サービスセグメントは、ビンホームズ (不動産)、ビンコム (ショッピングモール)、ビンパール (ホテル)、ビンコマース (小売)、ビンプロ (家電販売)、ビンメック (病院)、およびビンスクール (教育) から構成される。産業セグメントは、ビンファスト (自動車製造)、ビンスマート (スマートフォン製造) を有する。テクノロジーセグメントは、ビンID (決済サービス)、ビンテック (研究開発・投資) を擁する。2018/11にドラッグストア事業に参入し「ビンファ」の展開を開始。更に、ハノイ市との協力の末、2020年からのF1ベトナムGP開催が決定された。

企業データ (2019/12/12)

ベータ値	1.02
時価総額 (十億VND)	390,418
企業価値=EV (十億VND)	519,182
3か月平均売買代金 (十億VND)	44.9



主要株主 (2019/12)

1.VIETNAM INVESTMENT GROUP JSC	31.62
2.Pham Nhat Vuong	26.01
3.SK Investments Ltd	6.11

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp
 増淵 透吾
 togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>